

## 平成30年度 関西福祉科学大学高等学校 学校運営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- ・建学の精神「感恩」の実践、校訓「明朗・友愛・誠実」を生かした校風を確立する。
- ・基本的生活習慣を身につけ、優れた教養と学力をそなえた生徒を育てる。
- ・感謝の心を持った豊かな情操を育み、自立心のある人の育成を図る。

### 2 中期的目標

#### 1 教育の質の向上

##### (1) 授業の質の向上、ICT機器の活用

- ・授業アンケートや公開授業等を活用し、授業の質の向上を目指す。

授業アンケートの総体平均 75 点をめざす。

ICT機器（教室にある電子黒板機能付きのプロジェクター）やICT教室を活用し、より「わかりやすい授業」の実践を進める。

##### (2) 4コース体制の充実と見直し事項の検討

- ・平成25年度より始まった4コース制（特別進学Ⅰ、特別進学Ⅱ、進学、保育進学）について、現状を把握し、コース内容の見直しを含め、校務分掌毎に改善策を検討し、教育内容をより良いものにしていく。

##### (3) 進学実績の向上

- ・特別進学Ⅰコースを中心に、特別進学Ⅱコースからの合格者も含め、関関同立 20名と産近甲龍 50名（延べ数）の合格を目指す。

##### (4) 課外活動・クラブ活動の充実

- ・課外活動を充実させ、昨年度のクラブ入部率 45.3%を 55%以上となることを目指す。

##### (5) 学園総合力の向上

- ・併設の大学、短期大学、幼稚園との連携を密にし、学園総合力を向上させる。具体的には大学、短期大学との連携で進路意識を高めるプログラムを実践し、保育進学コースについては、短期大学教員による週1時間の保育に関する知識、技能を身につける授業を実施する。
- ・併設幼稚園では、複数回保育実習を実施する。

##### (6) グローバルな視点での教育の実践

#### 2 組織拡充

- ・教育力の向上と積極的な広報活動により、生徒数 1000 名を堅持できるように努める。

#### 3 教育環境の充実

##### (1) 校内生活および学習環境の整備

- ・新校舎での生活がスタートし 2 年目を迎え、整備された学習環境を積極的に活用する。
- ・学園いこいの広場「Tama Square」が完成（大勢が集い、寛ぎ語り合って「夢と志」がここで育つことを希う）。
- ・食堂改修工事の実施（食堂デザインW.T.は、学生・生徒も参加し、使い易く居心地の良い「快適空間」を目指す）。

##### (2) 日常の生活の中で省エネ教育を実践する。

#### 4 地域貢献 社会に必要とされ、愛される学園

##### (1) 全校生徒を対象とした地域周辺の美化活動の実践を継続する。

##### (2) 地域主催行事へ積極的に参加する。具体的には市民フェスティバル、交通安全啓発運動などへ積極的に参加する。

- ・平成27年度より実施している地域連携プログラム「歴史・科学の市民講座」、「卓球・バレーボール教室」（通年）を地域のこどもたちが多数参加できるように継続して実施する。

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	学校自己評価	学校関係者 評価委員会 の評価
1 教育力の質の向上	(1)授業の質の向上	(1)年度当初に各教科・各授業に対し「年間授業計画」を作成する。教科内で確認の上、教務、管理職でも確認のもと授業を進める。各学期終了後、実施内容、進度、考查結果の状況など確認し、次学期に役立てる。 ・授業アンケート（7月：1学期期末考査後実施）の結果を基に、各教員、教科内で検証、「わかる授業」の実践に取組む。 ・学外のITC研修などにも積極的に参加し、公開授業を通して、内容を教科で共有する。 ・授業外学習3時間/週を定着させ、学力向上に繋げる。	(1)授業アンケートの総体平均値が75.5点となること。 ・授業外学習3時間/週が60%以上定着させること。	(1) 授業アンケートでの平均が75.5点（昨年度73.3点）、目標値に到達した。ICT機器活用の成果が出てきている。今後さらに「わかる授業」のためのスキルをつける。(○) ・授業外学習3時間/週（1日平均30分以上）している生徒は、52.3%であった。進路、教科による具体的な取り組みを実施する。(△)	今後更なる努力を期待する。(○)
	(2)4コース体制の充実と見直し事項の検討	(2)学年会議、コース会議を通じて現状を把握し、また、校務分掌毎に課題を見つけて改善策を検討し、教育内容をより良いものにしていく。 ・満足度調査（10月：2学期中間考査後実施）については、職員会議で結果を報告の後、関係部署で検証し、今後の課題を検討、改善策を全体で共有する。	(2)高校生活満足度調査の「学校生活の充実度」に関する質問の肯定的回答率は、「充実度」59.8%（昨年度56.7%）であった。今後も継続してコースの課題に取り組んでいきたい。(△)	(2)高校生活満足度調査の「学校生活の充実度」に関する質問の肯定的回答率は、「充実度」59.8%（昨年度56.7%）であった。今後も継続してコースの課題に取り組んでいきたい。(△)	小テストなどの活用に期待する。(△)
	(3)課外活動・クラブ活動の充実	(3)生徒会と各クラブが連携し、クラブ紹介の方法を回数も含め工夫する。また積極的にクラブ体験を受け入れるようにする。 ・生徒会行事について見直しをすすめ、生徒会担当教員で検討の上充実させる。	(3)クラブ入部率55%以上であること。	(3) 第73回大阪高等学校総合体育大会女子総合成績第6位（昨年度4位）文化系、運動系共に活発に活動し、近畿大会出場などの結果を残した。クラブ入部率は、48.1%（昨年度45.3%）順調に伸びているが、55%には届かなかった。(△)	活発な課外活動、クラブ活動の活性化を望む。(△)
	(4)進学実績の向上	(4)進路指導部を中心に進路指導計画を策定の上、各教科学生との連携を基に指導を行う。	(4)卒業生徒の進路決定率100%。 ・関関同立20名と産近甲龍50名以上の合格（延べ数）。 ・併設大学・短大への進学者100名以上。	(4)進路決定率96.5%（昨年度96.0%） ・関関同立10名（昨年度16名） ・産近甲龍43名（昨年度20名） ・合格（延べ数）。(△) ・併設大学・短大への進学者125名（昨年度93名）。(○)	生徒の満足する進路決定と進学率の向上を期待する。(△)
	(5)学園総合力の向上	(5)学園内大学・短大・幼稚園との連携に関する担当者会議を行い、これまでの取り組み内容をベースに、課題や改善点を見だし、より良い取り組みを作り上げる（併設校の入試説明会、保育進学コース授業など）。	(5)実施内容と生徒の満足度を基準とする。	(5)説明会の感想や実習後のアンケート内容ともに良好。(○)	良好と評価できる。(○)
	(6)グローバルな視点での教育の実践	(6)英語検定を積極的に受験させる。 異文化交流や異文化理解できる行事を検討する。	(6)英語検定を積極的に受験させる。	(6)年間受験者384名（昨年度219名） 2級合格15名、準2級44名合格と大幅に増加した。(○)	良好と評価できる。(○)
2 組織拡充	組織拡充	・入試広報部と運営委員により構成される「入試委員会」で対外的な募集・広報活動計画と校内における入試説明会のプランを策定し、全教職員で内容を共有する。	・入試説明会、体験入学の参加人数が昨年度の2221名を上回ること。 ・新入生350名、生徒総数1000名。 ・卒業率96%以上を実現する	・今年度の学校・入試説明会、体験入学の参加人数は、計2575人で昨年比354人増加した。(○)  ・平成31年4月の生徒総数は1077名（昨年度1085名）、新入生413名（昨年度367名）を迎えることが出来た。(○)  ・卒業生は、398人（入学時427人）、卒業率は93.2%であった。(△)	良好と評価できる。(○)  良好と評価できる。(○)  卒業率向上のため努力に期待する(△)
3 教育環境の充実	校内生活および学習環境の整備	・新校舎での利用マニュアルの設定、避難経路の確認などを申し合わせ事項の再確認・点検をする。 ・食堂1階の改修工事により学校生活に支障をきたさないようにする。（食堂2階での営業など） ・日頃から「ものを大切にする意識」、「省エネの意識」を、教職員、生徒の間で話題にする。	・計画事項を無事完了すること。	・計画事項を無事完了。(○)	良好と評価できる。(○)
4 地域貢献	(1)美化活動の実践 (2)地域行事への参画	(1)生徒会美化委員会が主催する、本校の伝統である「美化ボランティア」清掃活動を今年度も実施する。1回目は全校生徒（希望者）対象で6月中旬実施、2回目はに学年毎に1、2年（11月）を予定する。 (2)地域と連携し、市民講座・スポーツ教室を実施する。 ・歴史・科学の市民講座を実施する。 ・卓球・バレー・ボーラーのスポーツ教室を実施する。 ・地域の市民フェスティバルに参加する。	(1)計画通り実施する。  (2)予定通り参加する。	(1)計画通り実施できたが、次年度はさらに良いものをを目指し、検討する。(○)  (2)予定通り実施。(○) 歴史講座10名、科学講座17名参加。 卓球教室 年間15回24名、 バレー・ボーラー教室 年間18回36名参加。 市民フェスティバルに参加。	良好と評価できる。(○)  良好と評価できる。(○)

## 4 学校教育自己診断の結果と分析

### 学校教育自己診断の結果

#### (1) 建学の精神、校訓

##### ・高い評価の項目

- 「建学の精神『感恩』が生徒によく理解されている」(85.7%)
- 「校訓『明朗 誠実 友愛』が生徒によく理解されている」(92.9%)

#### (2) 学習・進路

##### ・高い評価の項目

- 「子どもによると授業はわかりやすいと言っている」(71.4%)
- 「進路に関する相談はきめ細かくなされている」(85.7%)
- 「各種検定試験に合格するための指導が関係教科でなされている」(85.7%)

##### ・低い評価の項目

- 「子どもは家庭で積極的に学習に取組んでいる」(42.9%)
- 「進学補講の参加者は熱心に参加している」(35.7%)

・進路指導については、授業外学習の定着や進学補講の見直しを検討する。教員は、学外の研修にも積極的に参加し、内容を教科で共有し、教科会議を通じて教員一人ひとりがスキルアップする。ICT機器（教室にある電子黒板機能付きのプロジェクター）やICT教室を活用し、より「わかる授業」を実践していく。

#### (3) 課外活動・クラブ活動

##### ・高い評価の項目

- 「生徒会活動は活発に行われている」(100.0%)
- 「部活動は全般にわたって活発に行われている」(92.9%)
- 「学校行事は生徒にとって魅力あるものとなっている」(100.0%)

・生徒会が中心となり、行事を見直しより魅力的な新しい行事を検討する。また、クラブ入部率を増加させ、生徒の高校生活が充実するよう指導の充実を一層図っていく。

#### (4) 生徒指導・教育相談

##### ・高い評価の項目

- 「制服の着用、頭髪等身だしなみを整えるよう指導を徹底されている」(100.0%)
- 「生徒指導において、家庭と緊密な連携が出来ている」(85.7%)
- 「早期指導（個人面談、HR指導、初期対応など）に学校全体で取組んでいる」(92.9%)
- 「体調不良等心身の悩みを訴える生徒に対して、親身に対応している」(92.9%)

・生徒指導部が中心となり、高校生活満足度調査の結果を参考にして、夏服、女子の制鞄の改定などの検討を進めている。

#### (5) 情報公開

##### ・高い評価の項目

- 「本校のホームページを保護者はよく見ている」(71.4%)
- 「本校はホームページで保護者の知りたい情報を発信している」(87.5%)

##### ・低い評価の項目

- 「保護者、中学校、塾等に普段の授業をよく公開している」(42.4%)

##### ・全体的な情報公開について

今年度よりPTA総会の日に初めて授業参観を実施した。また、昨年度に引き続き塾対象説明会でも授業を公開した。普段の学校での様子や先生方の授業内容など、授業参観を通して学校や子どもの教育に关心を持って頂き、連携して教育活動を進めていきたい。  
体育祭、文化祭はもちろん、普段の学校生活や修学旅行などもタイムリーにホームページに公開した。さらに、校内設置のデジタルサイネージでは、委員会活動やクラブ活動の結果報告を日々更新した。来年度に向けて、学校案内とホームページのリニューアルを検討している。

#### (6) 施設・設備・その他全般

##### ・高い評価の項目

- 「施設・設備は充実している」(100.0%)
- 「教員はチームワークがとれており、どの教員も一貫した対応をしてもらえる」(92.9%)
- 「どの教員も相談しやすく、誠実に対応してくれる」(85.7%)

「子どもをこの学校に入学させてよかったです」(92.9%)

## 5 学校関係者評価委員会からの意見

- ・学園いこいの広場「Tama Square」が完成し、開放的になり学園全体が明るくなった印象を持っている。
- ・地域住民の委員からは、以前に比べると遅刻する生徒が少なくなった。また、服装面でも落ちていた生徒が増えたように思う。
- ・地域の清掃活動については、たくさんの生徒が参加し、意識が変わればと思うので、是非続けて欲しい。地域でも原川の清掃活動を毎月第2日曜日に実施している。年記者が多いので、「興味のある生徒さんはぜひ参加して欲しい」と呼びかけて頂きたい。
- ・クラブパックを持った多くの生徒が団体で下校する様子を見て、クラブが活発になってきたと感じていた。日々、道いっぱいに広がって歩いているときがあるから、リーダーの生徒が全員に「横へ寄って」と声を掛け合えるようになれば、より安全な通行が出来るようになると思う。
- ・登下校時に道いっぱいに広がって自転車で通学している生徒を見かける。桜並木には小学生の登校や通勤の自動車、歩行者が重なり危険な交差点（河内国分駅から上がってきたところ）がある。定期的に登下校指導を実施して欲しい。先生方が生徒に声を掛ける様子などを地域の方へ見られたら、地域の方も安心できると思う。
- ・漢検、英検に向けた小テストの不合格者に対する取り組みを徹底すれば、家庭での学習の習慣が身につき、授業の復習のきっかけにもなるとご意見を頂いた。
- ・先生方が、生徒一人ひとりを大切にし、親身になって「面倒見のいい」教育を実践していることを評価して頂いた。その上で、学年全員の先生方で、見ていただければ、担任以外の先生にも相談できる機会が増え、生徒もより相談しやすくなり安心できると思う。

貴重な意見を参考にさせて頂き、保護者や地域の方々の協力も得ながら、教職員全員で課題改善に向け努力して取り組んでいきたい。